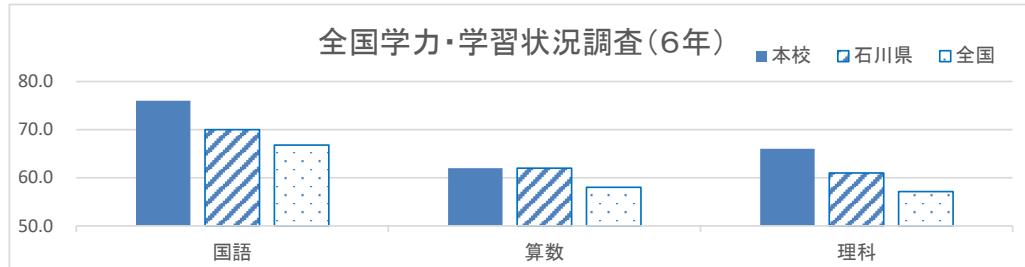




令和7年学力調査結果のお知らせ

初秋の候、保護者の皆様には本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。
今回の特別号では、1学期に実施した学力調査（4～6年）の結果をお知らせします。これらの結果を今後の教育活動に生かしてまいりますので、引き続きご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。

令和7年度 全国学力・学習状況調査（6年）



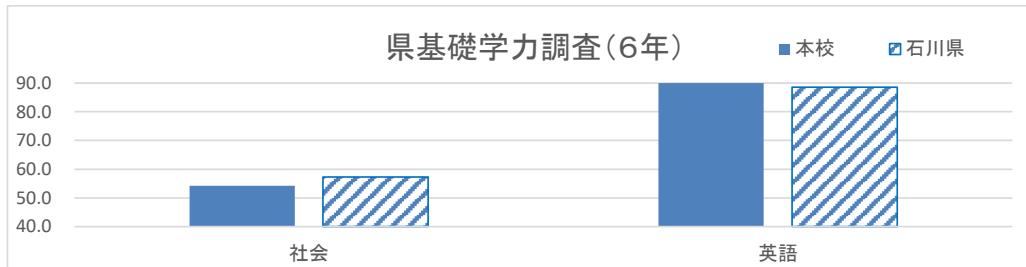
○は成果、▲課題、・これから学習指導

- 6年生の国語では、全国や県平均正答率を上回った。
- 資料や文章を読み、書かれている内容として適切なものを選択することはできていた。
- ▲ 複数の資料から必要な情報を抜き出したり、条件に合わせてまとめたりする力が十分ではない。
 - ・問題文や問題を解くために必要な部分や、資料にある数字や間われていることに線や丸などの印を付けたり、短い言葉での書き込みをしたりする線丸指導をし、複数の文章から分かったことや考えたことを述べたり、文章にまとめたりする活動を取り入れる。

- 6年生の算数では、全国の平均正答率を上回り、県平均正答率と同等だった。
- 図形の面積や小数の計算、二次元表の読み取りなどについて理解できている。
- ▲ 割合や分数、台形の意味や性質などの学習内容が定着していない。
 - ・児童の苦手とする問題に継続的に取り組み、理解を深める。

- 6年生の理科では、全国や県平均正答率を上回った。
- 乾電池のつなぎ方やヘチマの花や種子、水の結露等の学習について理解できている。
- ▲ 身の回りの金属についての知識や、学びを生かして差異点や共通点を基に新たな問題を表現する力が十分ではない。
 - ・実際に体験したり、ペアやグループで気付きや疑問を話し合ったりする機会を設ける。

令和7年度 県基礎学力調査（6年）



- 6年生の社会では、県平均正答率を下回った。
- 地域の安全を守る働きや人々の健康や生活環境を支える事業について理解できている。
- ▲ 複数の資料を基に考察し、題意に沿って適切に表現する力が十分ではない。
 - ・グラフの読み取り方についての指導では、そこから考えされることをまとめる時間を設ける。

- 6年生の英語では、県平均正答率をやや上回った。
- 簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、必要な情報を得ることができている。
- ▲ アルファベットや英語を4線の上に正しく書くことができない。
 - ・4線の上に正しく書くことができるよう、継続して練習する時間を設ける。

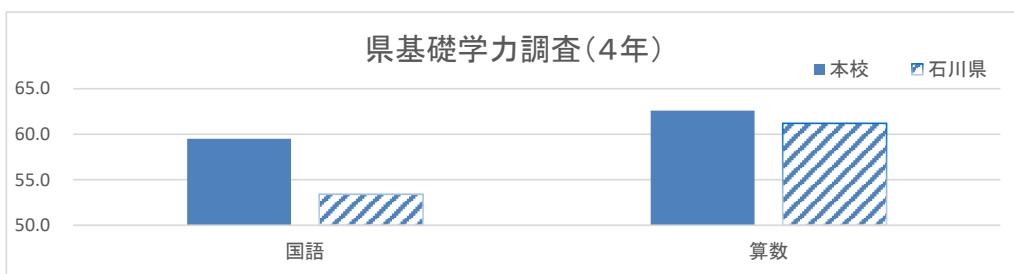
令和7年度 市学力調査（5年）



- 5年生の国語では、全国の平均正答率をやや上回った。
- 漢字の読み書きや自分の考えを明確にして文章を書くことはできている。
- ▲ 調べたことを基に文章を書いたり、説明文の段落の関係を捉えたりする力が十分ではない。
 - ・線丸指導をし、児童が文章を見直したり修正したりする時間を設ける。

- 5年生の算数では、全国の平均正答率を上回った。
- 小数や折れ線グラフ、簡単な場合についての割合などについて理解できている。
- ▲ 四角形の性質や概数、四則の混じった式の計算順序の理解が十分ではない。
 - ・児童の苦手とする問題に継続的に取り組み、理解を深める。

令和7年度 県基礎学力調査（4年）



- 4年生の国語では、県平均正答率を上回った。
- 簡単な単語についてローマ字表記されたものや基礎的な漢字の読み書きは概ねできている。また、辞書の使い方を理解している。
- ▲ 題意を捉えて、複数の資料から必要な情報を抜き出したり、条件に合わせてまとめたりする力が十分ではない。また、そのような問題において、無回答の児童の割合が多い。
 - ・線丸指導をし、題意や条件を意識できるようにする。

- 4年生の算数では、県平均正答率をやや上回った。
- 多くの設問で県平均を上回った。
 - ・基本的な計算や、形の構成、かさの単位について理解できている。
- ▲ 図形についての算数用語を使ってまとめたり、グラフから読み取ったことや表の言葉を使って表現したりする力が弱い。
- ・授業の中で、教科の用語やグラフから読み取ったことを使ってまとめる機会を多く設ける。

令和7年度 児童質問紙より（6年）

- ・「国語・算数・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の質問に対して、100%の児童が肯定的評価をしています。日々の学習は、将来の自分のためであることを、児童も教師も意識して取り組んでいます。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」の質問に対して、100%の児童が肯定的評価をしています。今後も、学校全体で「褒め・認め」の指導を心がけていきます。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に対し、肯定的評価をした児童が95.2%おり、学校教育の中で、人の役に立つことの大切さを学び、そのよさを実感することで実践しようとしている児童が多いことが分かります。今後も、「資質・能力の育成につながる子供主体の授業づくり」が実践できるよう、教職員一同励んでいきます。また、「じぶん」「みんな」「どこででも」を合言葉に、学校全体で児童が安心して学び過ごせるように配慮していきます。